

②計測実験拠点
ILCの素粒子衝突点の地下および地上に構築する実験設備がある場所、メインキャンパスに対し「サテライトキャンパス」と呼ばれる場所です。地上部には、ILC測定器オペレーションセンター、ILC国※サテライトII衛星の意味

■最先端科学技術エリア
次の3つの拠点で構成されます。
①中核研究拠点
新設予定のILC国際研究所や参加研究機関をはじめとする研究・管理機能がまとめられた「メインキャンパス」で、世界最高水準の先端科学技術の研究が行われる場所です。
研究者や職員の通勤と生活利便性を考慮し、既存市街地や、新幹線の駅、高速道路インターチェンジに比較的近い空間に形成します。研究機関などの立地需要の増加に応じて段階的に整備され、最終的には1000畝程の面積になると想定されています。

■最先端科学技術エリア
次の3つの拠点で構成されます。
①中核研究拠点
新設予定のILC国際研究所や参加研究機関をはじめとする研究・管理機能がまとめられた「メインキャンパス」で、世界最高水準の先端科学技術の研究が行われる場所です。
研究者や職員の通勤と生活利便性を考慮し、既存市街地や、新幹線の駅、高速道路インターチェンジに比較的近い空間に形成します。研究機関などの立地需要の増加に応じて段階的に整備され、最終的には1000畝程の面積になると想定されています。

■最先端科学技術エリア
次の3つの拠点で構成されます。
①中核研究拠点
新設予定のILC国際研究所や参加研究機関をはじめとする研究・管理機能がまとめられた「メインキャンパス」で、世界最高水準の先端科学技術の研究が行われる場所です。
研究者や職員の通勤と生活利便性を考慮し、既存市街地や、新幹線の駅、高速道路インターチェンジに比較的近い空間に形成します。研究機関などの立地需要の増加に応じて段階的に整備され、最終的には1000畝程の面積になると想定されています。



メインキャンパスのイメージ（出典：㈱野村総合研究所作成、福山コンサルタント協力）

②コミュニティセンター
さまざまな国籍や文化を持つ人々に、国際レベルの医療、育児、教育、文化、情報、スポーツ・レクリエーションなどの生活サービスを提供する場です。

①交流居住地区
ILC国際研究所の職員や参加研究機関の研究者、およびその家族などが住む場所です。「人間性の重視、自然との融合、ゆとりの創出」を理念としています。研究者や職員の利便性に配慮し、中核研究拠点へ車で30分の圏内とし、周辺都市の市街地に近い地域に形成します。

■国際交流生活エリア
さまざまな国の研究者らが生活する場所「国際交流生活エリア」は、『交流居住地区』と『コミュニティセンター』の2つの拠点で構成されます。

ベンチャー企業の創出などを行う場所「科学技術産業パーク」です。
シンボル性や社会基盤の効率的利用、企業従事者の利便性を考えて、中核研究拠点の周囲で幹線交通ネットワークにも比較的近い空間に形成します。

研究者・職員、またその家族全てが利用することから、「中核研究拠点」と「交流居住地区」のどちらからでも利用しやすい場所に形成します。
今回は、中心範囲の機能を補う「中域交流範囲」と「広域連携範囲」について紹介する予定です。

「国際リニアコライダー計画推進」講演会

いわてILC加速器科学推進会議では、今回紹介した「将来ビジョン」を執筆した北村倫夫氏と、都市計画の権威である大村慶一氏の講演会を開催します。

■日時 8月25日(土)午後1時～4時
■場所 II市文化会館（Zホール）
■演題 II「ILCを核とした東北の将来ビジョンについて」北村倫夫氏（㈱野村総合研究所）、「北上高地国際学術都市」大村慶一氏（元東北大学大学院教授）
■参加費 II無料

■問い合わせ IIいわてILC加速器科学推進会議事務局（奥州宇宙遊学館内）2020



市が東北誘致に取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下、ILC）計画」について最新情報を隔月連載します

希望のひかり 第3回

ILCを核とした東北の将来ビジョンの公表

第2回では、県が提案した「TOHOKU国際科学技術研究特区」についてお知らせしましたが、今回は、東北ILC推進協議会（東北加速器基礎科学研究会から改組）が7月10日の総会で発表した「東日本大震災からの復興に向けて——ILCを核とした東北の将来ビジョン」の一部をご紹介します。

このビジョンは、ILCの建設地選定が大詰め差し掛かっていることから、東北の震災復興と再生の原動力となる北上山地へのILC建設について理解を深め、プロジェクトの実現を目指そうと策定されたものです。東北の地が基礎物理実験の場としてばかりではなく、世界との交流の場、技術革新の場として力を発揮し、東北の再生と復興につながる

ことが期待されています。
ビジョンには、ILCを核として東北を先導する場所として、科学、技術、情報、交流、生活の5つの条件を備える『国際科学技術研究圏域』が示されています。

国際科学技術研究圏域

国際科学技術研究圏域は、中核研究拠点の約15キロから20キロ圏である「中心範囲」と、その機能を補完する役割を担う盛岡から仙台あたりまでの「中域交流範囲」、科学技術面で連携が可能な東北全域と新潟県までを範囲とする「広域連携範囲」の3つの階層で構成されています。

「中心範囲」とは

中心範囲は、「最先端科学技術エリア」と「国際交流生活エリア」の2つのエリアで構成され、「中核研

■図 「中心範囲」の拠点・地区の配置イメージ（出典：㈱野村総合研究所作成）

